



しりょうかんだより

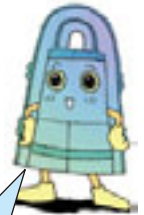


No.26



しりょうかん
にある
なぞの印鑑の巻

これは何だろ
う？



これは、伊保郷
印といって、銅
でできた古い印
鑑だよ！



いつの時代のものだろう？



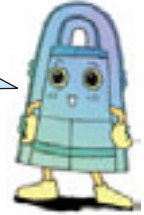
どこで見つ
つたの？



へいあんじだい
平安時代から伝わる古い
印で、田券とよばれる土地
文書などに押したといわれ
ているよ！



伊保郷印が見つかった保見地区は、射穂神社や伊保古瓦出土土地など奈良、平安時代の文化財や遺跡がたくさんあるから、人々が昔から住んでいたところだったんだ！豊田市内ではほかに、挙母郷、高橋郷などの地名が、奈良時代の平城京で見つかった瓦や木簡に出てくるよ！



伊保、挙母、高橋という名前は、奈良、平安時代からある、とても古い地名なのね！

民具紹介 薬を作る道具 — 薬研 —

①薬草をくぼみにいれる。



薬研は、みんぞくしりょうかんにあるので、見に来てね！

②取っ手を両手でもち、円盤を前後に動かす。



薬研の使い方
薬研は押しつぶして混ぜ合わせることが出来る道具です。薬草などを砕いて飲みやすい粉薬にします。

花火の火薬をつくる時も使ったんだって！



③粉を集めて、入れ物に移す。

市内の史跡へ行ってみよう！



百々貯木場跡

現在の貯木場のようす



矢作川の岸边にあり、船やいかだで運搬することがさかんだったようすがわかります。

大正時代の貯木場のようす



貯木場は百々の材木商今井善六によって大正7年(1918)につくられたものです。右垣や水門で囲まれた区画が、当時のまま残っています。

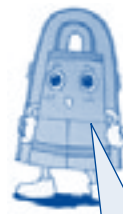
大正時代のようすがそのまま残っているのね。



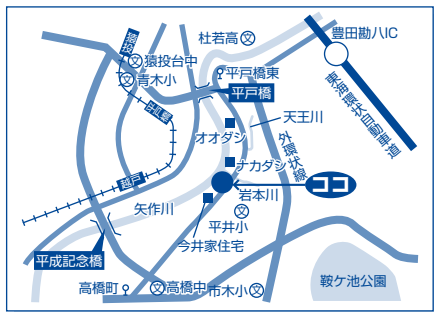
昔は、矢作川の上流で買い付けた材木をいかだや丸太のまま川に流し、百々の貯木場に集めました。貯木場の横には製材所があり、大勢の人々がはたらき、にぎわっていました。矢作川に越戸発電所とダムが建設されるといかに流しができなくなり、またトラックなどの陸上輸送もさかんになると、ここはつかわれなくなってしまいました。

ひらとほしふきん

平戸橋付近のいかだ流しのようす



たくさんの材木をいかだに組んで運んでいたんだね。



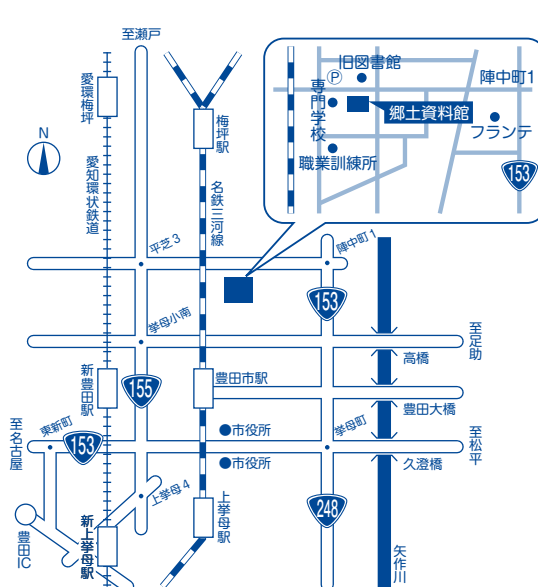
7月3日(火)~10月21日(日)、しりょうかんで企画展「古い道具と昔の暮らし~暮らしをまもる人々~」をやってるよ！(月曜休館)



人々はさまざまな道具を使って火事を防ぎ、火災予防の活動を続けていました。古くから伝わる消防の道具から、暮らしをまもるための知恵や苦労を知ることができます！

しりょうかんだより No.26 平成24年7月13日発行

お問い合わせ先 豊田市郷土資料館
〒471-0079 豊田市陣中町1-21 電話 32-6561
E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp
ホームページ http://www.toyota-rekihaku.com



【郷土資料館への行き方】
名鉄「梅坪」駅から南へ徒歩10分
名鉄「豊田市」駅から北へ徒歩15分
とよたおいでんバス「陣中一丁目」から徒歩5分